

H29. 7. 27 東淀川区区政会議 教育・子育て部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 7 月 27 日(木)午後 7 時から午後 8 時。東淀川区役所 3 階 304 会議室
出席者 教育・子育て部会委員 12 名

議題 1 (仮称) 東淀川区将来ビジョン 2.0～2022 年に向けて～(素案)について

(文章表現について)

- 今までの委員の皆さんから出された考え方や発言をうまくまとめて一つの形にさせていただいた。
- 「『生きる力』を身につけるのに大切な自尊感情」という部分の表現を検討いただきたい。
- 今まで話し合ってきた我々は内容をわかっているが、「生きる力」というのはあまりにも抽象すぎないか。どういう内容を子どもに伝えなければならないかをもう少し具体的に提示しては。

- ・適切な文章表現を検討していきたい。
- ・「生きる力」は大阪市教育振興基本計画などで使われており、教育委員会の文章の中では定着してきているため記載したが、区民の方にわかりやすい、具体的な表現を工夫したい。

議題 2 平成 30 年度取り組みの方向性について

※意見なし。

※今年度の部会・学習会での意見をまとめた「平成 30 年度取り組みに向けた区政会議意見まとめ(教育・子育て部会)」の項目より、平成 30 年度重点的に取り組むべきテーマについて全委員が 1～3 位まで選び、アンケート集約する。

H29. 8. 21 東淀川区区政会議 教育・子育て部会 学習会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 8 月 21 日(火)午後 7～9 時。東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 教育・子育て部会委員 8 名、他部会委員 2 名

議題 1 過去のワークショップに基づいた平成 30 年度の取り組みについて

「こどもとおとなが互いに元気になれるまちづくりについて」

A 班（地域のつながり・居場所について）

- 居場所づくりは地域によってニーズが違う。地域で計画を立てて、できるところから区役所にコーディネートしてもらいながら進めるのが理想。立ち上げのアドバイス事業がいい。
- 横の繋がりが難しい。うまくつながらない。学校がなかなか使えない
- 地域活動協議会の補助金が子育て・教育分野にあまり使われていないのではと感じている。別途補助金を執行できるような体制。例えば地域ごとに対応できる子育て支援事業制度を創設し、もっと地域のこどものためにお金を使ってほしい。ひとつの居場所のきっかけになるのではないかな。提言を残し 30 年度取り組んでほしい。

・各地域でどの事業に予算を使うか意見を言い合い活性化に資するのが理想。

B 班（居場所・こども食堂・遊び場について）

- 運営する人が不足している。発掘することが課題。
- 苦情や規制で遊び場が減っている。公園では火遊びしてはいけないなど規制が多すぎる。大人が責任を持って監視しながら、こどもが自由に色々な体験ができる広場やスペースをつくってはどうか。自分たちでルールを身に付ける、大人は叱るだけでなく「ななめ」で見守ってくれるような関係を作る居場所づくりはどうしたらいいか。様々な体験が自尊感情を高める。
- こども食堂はどこもこどもがたくさん集まり過ぎていて、今は給仕で精一杯。本来したいこども同士やこどもと大人の関わりに結びつくところまでいっていない。分散していくべき。
- 飲食店に協力いただいて 100 円でとか 10 分間皿洗いすることでご飯が食べられる仕組みがあってもいい。飲食店側に過度な負担にならなようにハードルを下げてくださいませんか。
- 中高生が遅い時間に遊ぶところがなくなつてしまっている。区内にはゲーセンもなく梅田まで出て危ない目にあっている。デンマークでは夜にバンドやビリヤードができるユースセンターがある。溜まれる場所・西成区のプレイパークのようなものをつくっては。世田谷では NPO に委託運営。

・西成区のプレイパークでは落とし穴など自由な遊びができる。プレイリーダー（お兄さんお姉さん）がおり、ななめの関係から危ないときなど注意してくれる。

・飲食店の人に時間をずらして実施を依頼するなど、大人の思い込みを見直して敷居を下げることでできれば発想が広がる。昨年度、区内でワンコインで食べられるメニューを各店舗で用意いただく「あっぱれゴハン」の取り組みがあった（府事業）。

「すべての子どもが「生きる力」を身につける子育て、「共育」のまちづくり」

A班（トップアスリート・自尊心向上・生活習慣・家庭について）

- 「トップアスリート事業」はオリンピック選手レベルが来てほしい。シンクロの方が来たときは感動した。「テストでいい点とろう学習会」も引き続き実施検討を。
- 認めてあげて、最終的には自分が自分のことを認められること。くじけたときにも力になる。
- 親もどうしていいかわからない。子どもと一緒に引きこもってしまう人もいる。
- 親が相談できるところが少ない。行政が子育てや発育について相談できるような窓口をつくってはどうか。
- 夏休みの学校プール開放の際、少し早く来て夏休みの宿題をするのを各地域で定着させては。
- 堺市や淀川区のように、睡眠をきちんととらせ食育など生活習慣を定着させ、子どもたちの健全育成につながる取り組みを行政がするべき。
- 赤ちゃん先生。赤ちゃんと直接触れ合うことで、命の大切さや親にどれだけ大事にされてきたかということを知り自尊感情の向上につなげる授業を、昨年度落ちてしまったがまた考えてもらえないか。

- ・中学生勉強会では、小学生1・2年の内容がわからない子も。1対1で、内容も遡って、認めてあげながらどれだけ伸ばしてあげられるかで、自尊心、生きる力につながる。
- ・昨年の子どもの貧困調査では、生活リズムがとれていない子は学力が低くなる結果。

B班（お手伝い・様々な体験について）

- 規制が多すぎる。自分たちで遊びを考えたり校庭キャンプで炊事するとかまつりを手伝うとか、いろんな体験をするといい。
- まつりのブースを任せたらどれだけ大変かもわかる。子どもに手伝ってもらって、苦労を学んだり、「助かった」と言われる機会をつくったらいい。将来の担い手にもつながる。行事が多いので子どもたちに手伝ってもらい、行事に使えるお手伝い券を渡す話がでている。
- 子どもが活躍する機会を作れないか。箕面では子ども通貨（「まーぶ」・まなぶとあそぶの造語）がある。協力店が増えキッズモール全店で使える。ポスティングや公園清掃など1時間で100まーぶ。ありがたいが形になる。新たな適性や仲間が見つかる。